

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0772300497		
法人名	医療法人社団 仁嘉会		
事業所名	グループホーム花南会津1		
所在地	福島県南会津郡南会津町丹藤字中川原675-6		
自己評価作成日	2018/8/15	評価結果市町村受理日	平成30年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成30年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所から13年が経過し、地域の理解のもとに、買い物・畑・散歩・体操教室や町のイベントなどに積極的に参加している。認知症の方ができることを支援し、楽しく暮らしていただいている。地域の開業医と訪問看護ステーションと連携し、看取りをおこなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業所は町内会に加入し、地域の行事などに利用者とともに積極的に参加している。また、日常的に利用者の外出・散歩を支援し、地域住民や近隣の保育園児との継続的な交流を図り、近隣の住民とは野菜のお裾分けを受けたり、互いに茶飲みに誘いあうなどの親密な関係が築かれている。さらに、オレンジカフェの開催、認知症早期発見事業に係る職員の派遣、地元の中高生の職場体験やボランティアの受け入れなど、事業所が有する機能を地域に還元し、地域との交流や連携に努めている。  
2. 正職員は介護福祉士又は介護支援専門員の資格を有し、専門性に基づく利用者本位ケアの実践に努めている。センター方式を利用して一人ひとりの利用者の思いに寄り添い、日常の外出や選挙の投票など、「やりたい事」を支援し「やれることを奪わない」ケアの実践に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に一員としての関わりを大切に」を理念とし、スタッフルームに掲示し、共有・実践している。	新人職員の研修時に、理念に基づくケアの実践の重要性を説明している。また、全体会議やケア会議でケアの振り返りを行いながら、理念に基づくケアの浸透に努めている。理念をスタッフルームとフロアに掲示し、職員がいつでも確認できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区の行事に参加したり、保育園・障害者施設と交流している。地域の方から野菜をいただいたりしている。広報を定期的に回覧している。期日前選挙など支援している。	日常的に、利用者の外出や散歩を支援し、地域の人々と触れ合う機会を設けている。また、町内会に加入し、地域の行事やコンサートなどに積極的に出かけ交流を図っている。さらに、オレンジカフェを開催し、地元の中学校・高校の職場体験やボランティアを受け入れるなど、地域住民との幅広い交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症早期発見事業に協力し、オレンジカフェの開催やボランティアの受入など協力している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	利用者様が参加しやすいよう運営推進会議を開催している。	運営推進会議の委員には、町役場、地域包括支援センター、民生委員、家族代表に加え利用者も参加している。事業所からの活動内容や行事予定等の報告を行い、その後にメンバーからは様々な意見が出されている。出された意見は、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、防災の協力をいただけるよう連携している。オレンジカフェに協力いただいている。	町役場担当者とは、随時電話で報告や相談をしている。また、運営推進会議のメンバーになっており、事業所の実情やサービスの取組み等の情報共有が図られている。町内に同種の事業所がないこともあり、密接な協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等防止委員会を設置し、全体会で話し合いをし、常に意識している。「身体拘束防止等にかかる指針」を掲示している。	身体拘束防止委員会を設置している。毎月、全体会議で委員会からの報告を受け、職員全員で話し合い周知徹底を図っている。また、「身体拘束防止等の指針」を作成し、スタッフルームに掲示して、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、全体会で共有している。虐待・不適切ケアなど全員で早期の対策に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協の権威擁護事業など利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご家族に説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、しんごろう会や年に1度家族会を開催している。アンケートを実施している。	家族からは、利用者との面会時に意見や要望を頂くため、面会時には、声をかけて意見、要望を伺うように努めている。また、年1回、家族会を開催し、家族だけで話し合う時間を設け、出された意見等を運営に反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	10年勤続表彰など行っている。法人の事務長と面談をしている。	毎月開催している全体会議で職員の意見や要望を聞いている。また、毎月法人の事務長が来所して職員と面談している。管理者は、新人職員と定期的に面談を行い意見等の把握に努めている。職員から出された意見要望は、運営に反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得や、臨時職員から正職員への雇用・法人内の人事異動など行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	適宜研修へ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会議や研修で交流をしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の調査などご家族や本人と話し合いをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初は特に本人によりそい、できることを支援し、安心していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人とよく話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長年の経験を活かした家事や、畑など支援している。昔の話をうかがっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方のご家族様には電話などで様子をお伝えしたり、面会・外泊など支援している。月一回は状態を手紙でお送りしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医や理髪店などは、関係を続けている。隣家へお茶のみに行ったりしている。	かかりつけ医、理容店など、入居前の馴染みの関係が途切れないように、職員が送迎等の支援をしている。家族、知人等の面会や外泊、帰省が頻繁に行われている。また、携帯電話の保有が出来、携帯を持たない人には電話の取次ぎを行うなど馴染みの人と自由に話ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	縫い物や趣味が同じ方同志交流している。具合が悪い時は、心配をしたり常に助けあっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りを行なったご家族様と野菜をいただいたり、広報をお渡ししたり関係を続けている。オレンジカフェを開催している。ご家族様がボランティアで散髪にきてくださっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に希望にそえるようケア会議で話あっている。	センター方式を使用し、一人ひとりの思いの把握に努めている。日頃の会話や行動、表情などから思いや意向を汲み取り、ケア会議などで話し合いながら把握を行い、情報の共有を図っている。日頃のケアでは、時間をかけて利用者との会話を行うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、生活歴や入居までの暮らしなど把握している。ご家族に話をうかがっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼での申し送り、日報やケア変更用紙などで確実に変化を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回ケア会議を開催している。また随時ケア変更用紙で随時みなおしている。	ケアプランは、利用者や家族の意向を踏まえ、毎月開催しているケア会議で職員で検討を行い、決定している。また、モニタリングは毎月、担当者の報告をもとに協議しながら実施している。ケアプランの見直しは、毎月実施しているモニタリングを踏まえ、その都度変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた記録をおこない、実行している。気づきを記録に記入にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	町振興公社開催の体操教室や、コンサートなど普段から外出している。区や町の行事に参加している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	それぞれの区の敬老会や、馴染みの理髪店などにお連れしている。保育園の行事や選挙など参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅からのかかりつけ医を継続している方もいる。体調変化時には往診・また看取りなど行っている。訪問看護師と連携している。	本人・家族の希望するかかりつけ医、医療機関を受診できるよう支援している。これまでのかかりつけ医の往診もあり、馴染みの関係を継続しながら医療が受けられる体制がとられ、通院は事業所が同行し、結果は電話やお便りで家族に報告し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に常に相談できるような体制になっている。24時間主治医や看護師と連絡ができる。週一回のバイタルチェック。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期の退院の支援と、入院時早期にサマリーを届けている。遠方のご家族の希望で洗濯物の支援や、様子伺いに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の方針を説明し同意をいただいている。最期への希望や看取りについても随時対応している。	入居時に事業所の重度化・看取り指針を説明し、意向確認をして同意を得ている。また、重度化や終末期の対応は、その都度、意向と方針を確認しながら、医師、家族、事業所が話し合い、方針を共有しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、共有している。全体会で見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成している、夜間のシミュレーション訓練をしている。水害時の協定など行政と策定し、随時連絡できるような体制になっている。運営推進会議で話し合いをしている。	消防署・地域住民の協力を得ながら、火災を想定した総合防災訓練を年1回実施している。また、火災想定での夜間避難シミュレーション訓練を実施している。本年、水害時避難マニュアルを改定した。地震や風水害の訓練は実施していない。非常時用備蓄品は食料・水・暖房機器・ガスコンロ等を準備している。	火災だけでなく地震や風水害を含めた防災訓練計画を策定し、計画に基づいた数多くの防災訓練の実施が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体会で話あい、プライバシーや個人情報など勉強会を開催している。排泄や入浴時など羞恥心に配慮した声かけをしている。大声で話をせずジェスチャーや耳元で話すなどしている。	昨年実施した、不適切等ケアに関する職員アンケート結果を踏まえ、利用者の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について、会議で話し合い確認しながら支援している。重要書類は書庫管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	よくお話をうかがい、表現が難しい方はよりそい表情などで希望にそえるように関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個別に支援している。イベントに出かけたり、のんびり過ごしたり、畑をしたり関わっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をしている方は続けていけるよう支援している。季節にあった衣類など選んでいただいている。できるだけ同じ床屋にお連れしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理の下準備や盛り付け・食器洗いなどそれぞれ役割があり、続けていただくよう関わっている。職員も一緒に食事をし、ゆくり召し上がっていただいている。	食材購入、野菜の皮むき、盛りつけ、食器洗い、片付け等を利用者と職員が一緒に行い、共に食事を摂りながら楽しい食事となるよう支援している。利用者の嗜好については、日頃の会話等から把握し献立に反映している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が季節・個人に応じたメニューを基本に、畑の野菜など取り入れている。個別に水分提供をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアやみがきなおし、週一回義歯洗浄など支援している。個別にはみがきの習慣を続けていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に支援している。ほぼ自立の方は見守っている。	自立している利用者が多く、トイレでの排泄が継続できるよう支援している。また、介助が必要な利用者には、排泄チェック表や行動、仕草、表情等から排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮したトイレ誘導を行い、自立にむけた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のヨーグルトの提供や、水分の確保・体操を支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別に希望にそって対応している	入浴が楽しめるよう入浴剤やゆず湯を実施し、夏期は毎日シャワー浴も実施するなど、個々にそった支援をしている。入浴を好まない利用者には、時間や職員を代える等して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に対応している。日勤帯で日光浴や体操などしていただき活動していただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルにより事故防止をしている。カルテに内服薬に関する書類をまとめ共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を続けていただいている。(掃除・家事他)習字や図書館を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物は日常的にでかけ、イベント(コンサートや祭)など積極的に参加している。出かけてくの方はホームにパンなど販売に来ていただいている。	日常的に事業所周辺の散歩や菜園で作業を行い、買い物、コンサートに出かけ、花見など季節に応じた外出支援をしている。また、家族との外泊や食事、結婚式、兄弟会、墓参、温泉に出かける等、外出の機会が多く持てるよう支援している	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をもって、自由に連絡していただいている。電話をかけたり、家族友人からの電話をとりついでいる。随時、手紙は個別に出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や季節の飾りなどしている。夏は自然の風をとりいれ、随時エアコンを使用して心地よい温度で過ごしていただいている。	玄関や廊下に季節の花々や手芸品を飾り、落ち着いて過ごせるよう配慮されている。また、共用空間は温度・湿度管理や換気を行い居心地良く過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ席は気の合った方同志、自由にすごされている。居眠りをしたりのんびりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	個別にインテリアやTVを持ちこんだりしている。家族写真や寝具などもちこんでいただいている。	入居時に利用者と家族の希望に応じ、家具やベットの配置を行っている。居室には、自分で制作した手芸品や書道、家族写真を飾り、位牌やテレビ、椅子等を持ち込み居心地良く過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置し、自由に移動していただいている。		